



富嶽子六景 神奈川沖
波裏

HOKUSAI GreatWaveシステムの ベンチマーク

理化学研究所 情報基盤センター

2015/6/19 和光

理研シンポジウム2015

Outline

- HOKUSAI GreatWave systemの概要
 - CPU, memory, network
- ベンチマーク
 - 姫野ベンチマーク
 - NAS Parallel Benchmarks
 - IMB
 - 量子化学計算(SMASH)

Outline of HOKUSAI GreatWave (GW) system

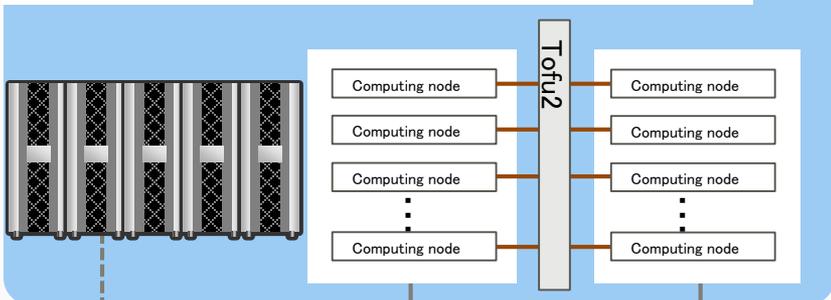
Computing system

Massively Parallel Computer (MPC)

FX100 (Fujitsu, 1,080 nodes)

Total peak performance: 1.0PFLOPS (1TFLOPS/node)

Total memory: 34TB (32GB/node)



Application Computing Server (ACS)

ACS with Large memory (ACSL)

2 nodes

CPU: Intel Xeon *4 /node

Peak Performance: 1.2TFLOPS/node

Memory: 1TB/node



ACS with GPU (ACSG)

30 nodes

CPU: Intel Xeon *2 /node

Peak performance: 0.88TFLOPS/node

Memory: 64GB/node



With GPGPU x4 / node

High speed network (InfiniBand FDR)

Ethernet Network



Online Storage

Actual capacity: 2.2PB



Hierarchical Storage

Tape Capacity: 7.9PB (uncompressed)

Front end servers

Login node x4

RIKEN Network



Users

GreatWave Massively Parallel Computer (GW-MPC)

- CPU: SPARC™Xifx (1.975Hz)
 - 1,080 nodes, 32 cores/node, 34,560 cores (1ノードに、2つのコアメモリグループ(CMG))
- Peak performance
 - **1.092 PFLOPS** (RICC: 0.0982 PFLOPS)
 - 1.975 Hz x 16演算 x 32 cores x 1,080
 - **1.011 TFLOPS/node** (RICC: 0.0937 TFLOPS/node)
- メモリ: 32GB/node
 - **BW: 480 GB/s/node** (RICC: 51.16 GB/s/node)
 - B/F: 0.47 B/FLOP (RICC: 0.54 B/FLOPS)
- 通信: 6次元メッシュトラス
 - FDR InfiniBand
 - **12.5GB/s** x 双方向 (ノード間) (RICC: 2 GB/s)





計測したベンチマーク

- 現状でどういう状態かを確認することを目的
 - チューニングなどは行わずに測定
- 姫野ベンチマーク
 - ポアソン方程式をヤコビの反復法で解く
 - 主にメモリバンド幅の性能に依存
- NAS Parallel Benchmarks (NPB)
 - NASA Ames Research Centerで開発された航空宇宙関連のシミュレーションのコアルーティンから抜き出されたベンチマーク
 - 科学技術計算に必要なさまざまな性能を評価
- IMB
 - ネットワークの通信性能を測定
- 量子化学計算(SMASH)のベンチマーク
- 他の発表者によるベンチマーク
 - 安藤さん: 分子動力学(GENESIS)
 - 北澤さん: 京チェックスイート

姫野ベンチマーク

- 測定条件

- 行列サイズはXL(1024x512x512)を用いる

- フラットMPI、MPI+openMP(-Kopenmp)、MPI+自動並列化(-Kparallel)

- 最適化オプション: -Kfast

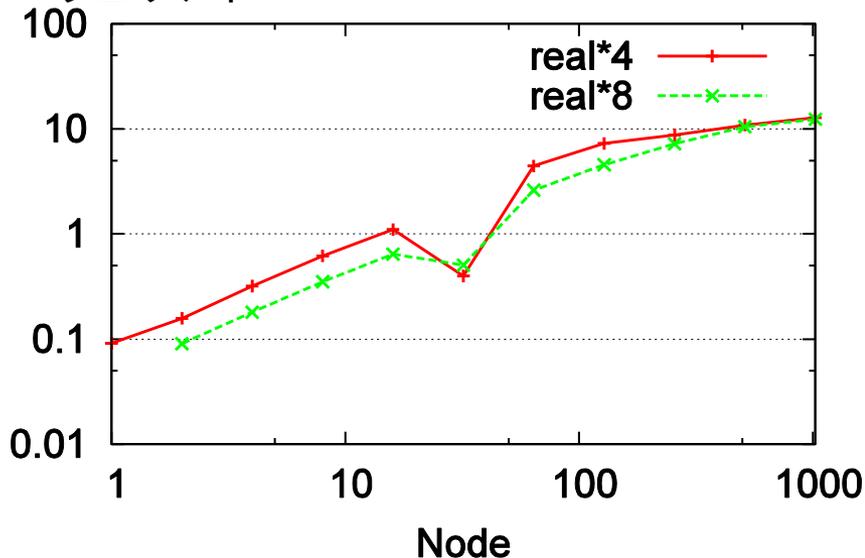
- 並列数とグリッドの分割

1(1x1x1), 2(1x1x2), 4(1x2x2), 8(2x2x2), 16(2x2x4), 32(2x4x4), 64(4x4x4), 128(4x4x8), 256(4x8x8), 512(8x8x8), 1,024(8x8x16), 2,048(8x16x16), 4,096(16x16x16), 8,192(32x16x16), 16,384(32x32x16), 32,768(32x64x16)

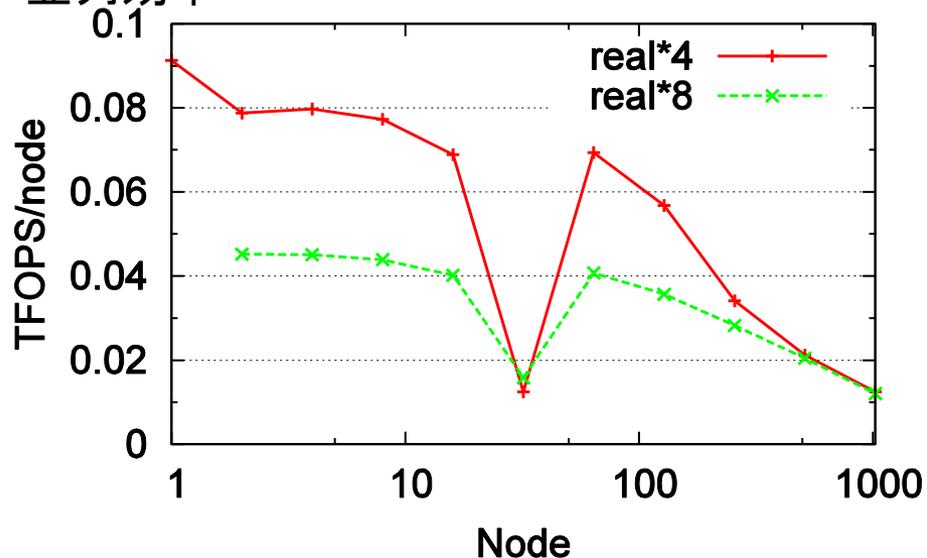
姫野ベンチマークの結果1 フラットMPI並列

- ノード間もノード内の32コアもMPI並列
- MPIプロセス数[nodex32]

スケーラビリティ



並列効率

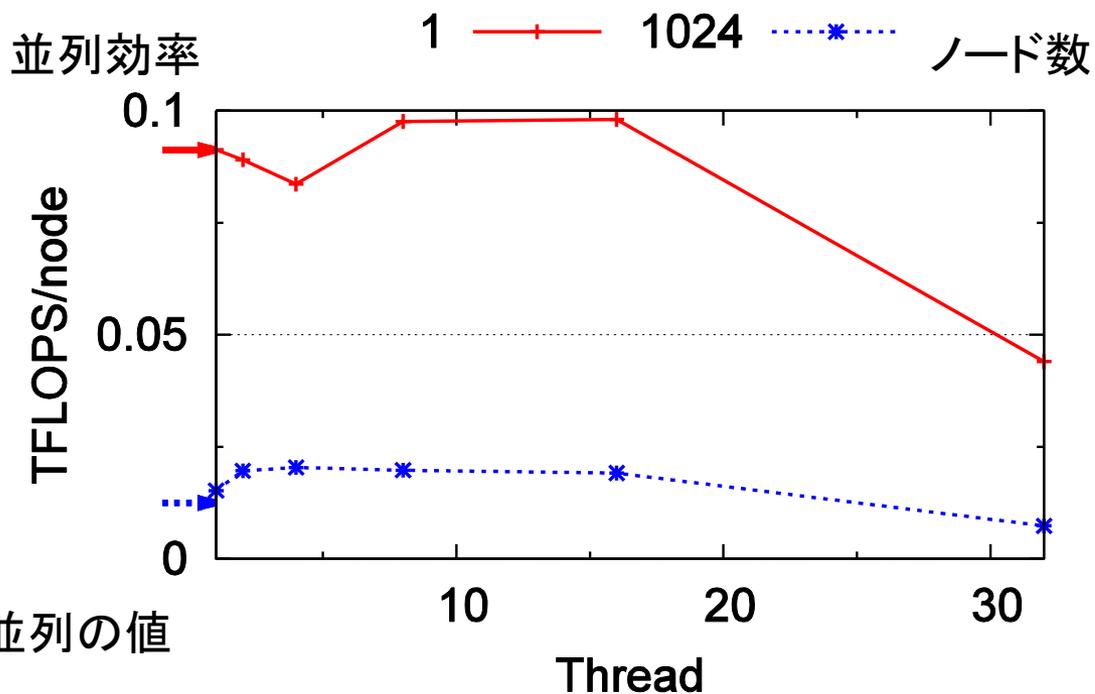


1ノードで理論性能の9%程度で、バンド幅からすると少し低い
 32ノードでは性能が大きく落ちるが、メモリ関連の問題か?
 倍精度は1ノードでは半分の性能で、1,024ノードでは同程度

姫野ベンチマークの結果2

スレッド並列数による性能の影響(MPI+openMP)

- ノード数(コア数)固定でスレッド並列数を変えて測定
- MPIプロセス数 $[nodex(32/thread)] \times$ openMPスレッド数[thread]



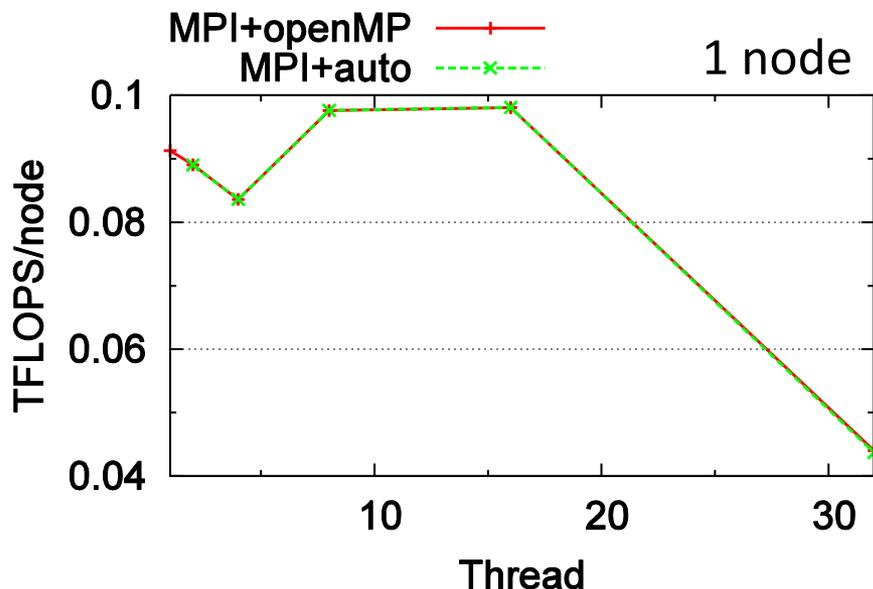
32スレッド並列は性能が相当落ちる

姫野ベンチマークの結果3

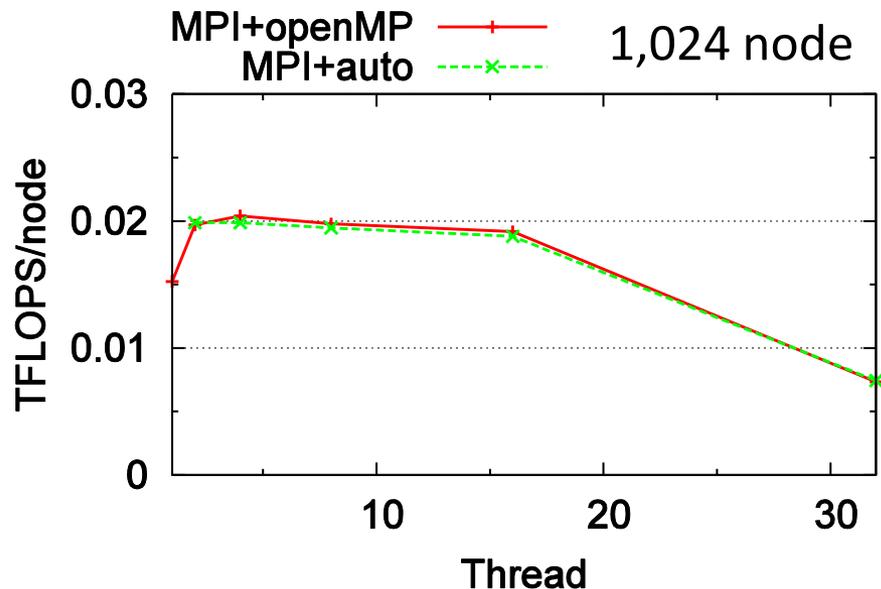
MPI+openMPとMPI+自動並列の比較

- ノード数(コア数)固定でスレッド並列数を変えて測定
- MPI+openMPとMPI+自動並列で比較

並列効率



並列効率



自動並列化でもopenMP並列化とほぼ同じ性能



NAS Parallel Benchmark (NPB)

- カーネルベンチマーク

- CG: 正値対称大規模疎行列の最小固有値を共役勾配法で求める
 - 通信量が多い
- EP: 乗算合同法による一様、正規乱数を生成
 - 通信がほとんど発生しない
- FT: FFTを用いた3次元偏微分方程式の解法
 - 大域通信性能の測定
- IS: 大規模整数ソート
- MG: マルチグリッド法のカーネル
 - 階層的な隣接通信

すべてCLASS Eで測定
CG, EP, FT, MG, LUについて
性能評価

- アプリケーションベンチマーク

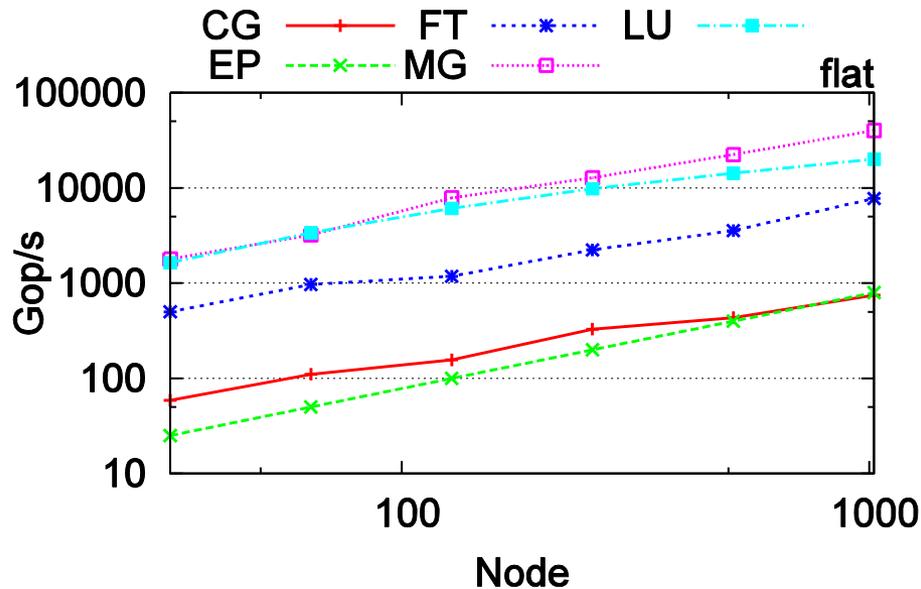
- BT: ブロック3重対角方程式をADI法で解く
- SP: 5重対角方程式をスカラーADI法で解く
- LU: 上下三角行列を対称SOR法で解く
 - 純粋な隣接通信でMGに比べて通信が多い

NPB 1

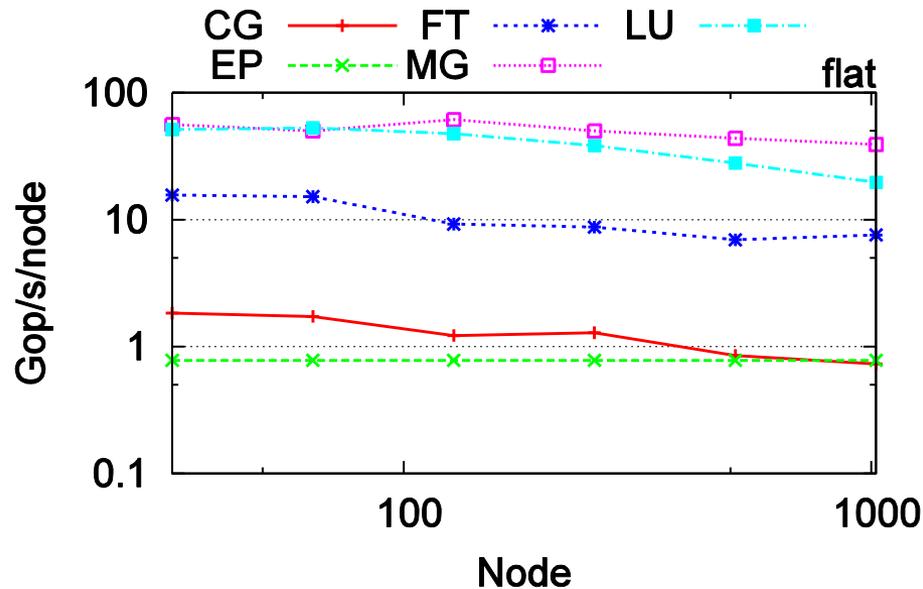
フラットMPI並列

MPIプロセス数[nodex32]

スケラビリティ



並列効率



- EPは予想通り並列性能が高い
- MGも並列性能が高く、LUは100ノードを超えると少し落ちてくる
- FTは100ノード前後で少し落ちるが、それ以上はあまり落ちない
- CGは並列性能がよくない

大規模並列でも優れた並列性能が得られた

NPB 2

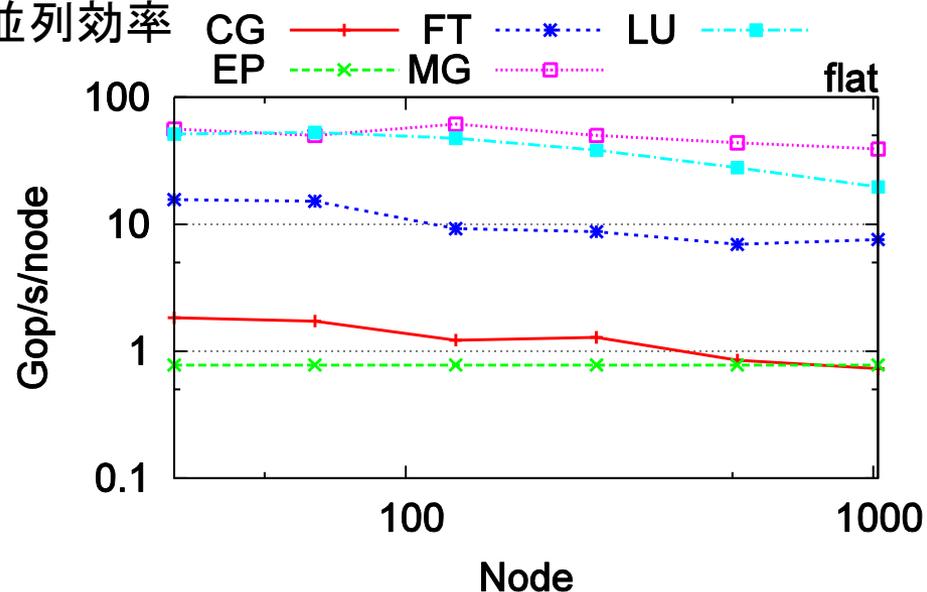
MPI+自動並列(16スレッド並列)による性能の影響

MPIプロセス数[nodex32]

MPIプロセス数[nodex2]

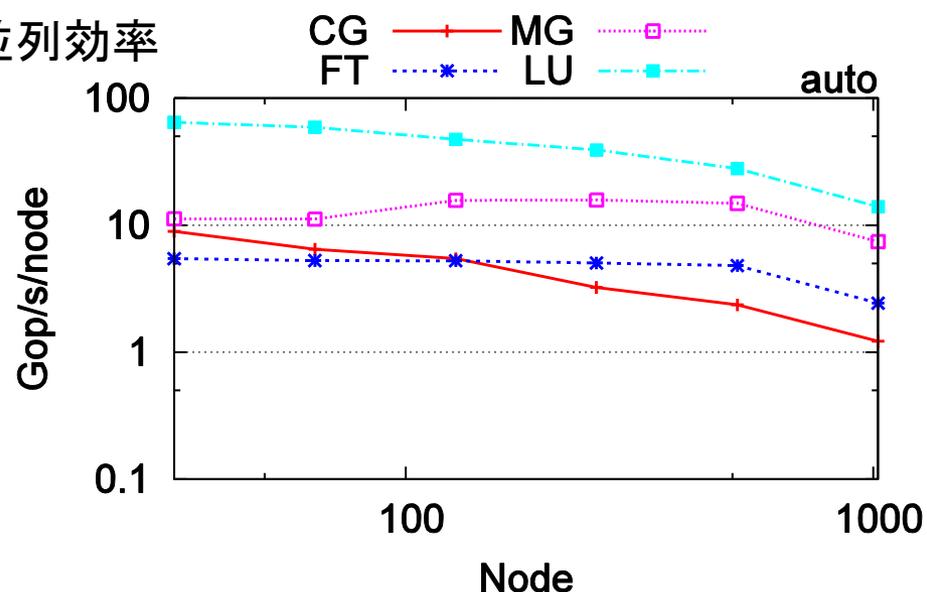
+自動並列スレッド数[16]

並列効率



EPは性能が大きく落ちるので除外

並列効率



自動並列化をすることによって、フラットMPIより速くなることもある

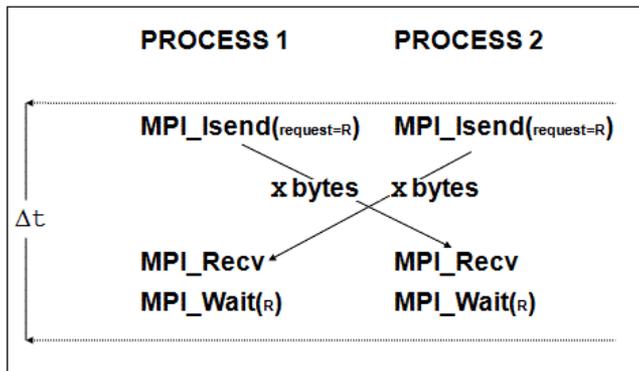


Intel MPI Benchmark (IMB)

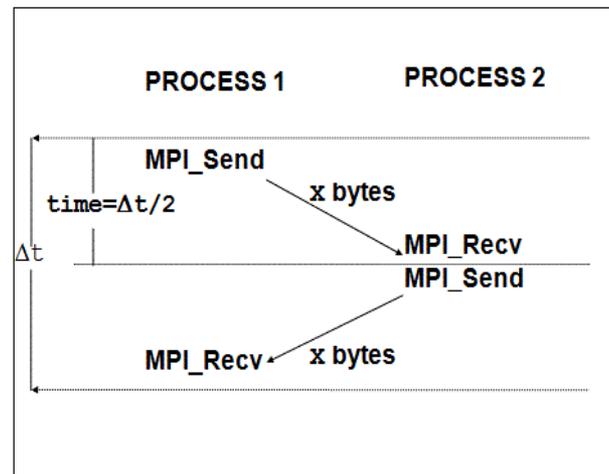
- IMBとは、Intel が提供しているMPI通信に係る性能測定のベンチマーク集
 - <https://software.intel.com/en-us/articles/intel-mpi-benchmarks>
- 今回は帯域など絶対評価が可能なMPI-1のベンチマークについて測定
 - PingPong, PingPing, Barrier, Exchange, SendRecv, Multi-PingPing
 - PingPong, PingPingは2ノード利用
 - Barrier, Exchange, SendRecv, Multi-PingPingは1024ノード利用

ベンチマークの概要

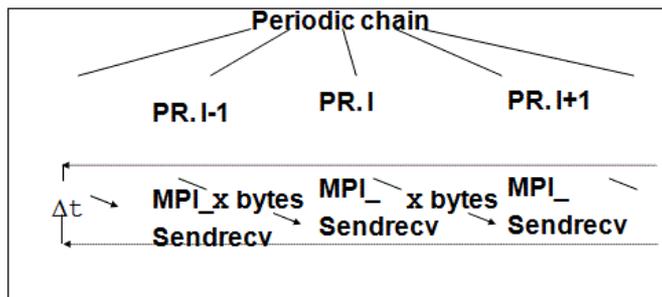
- PingPing



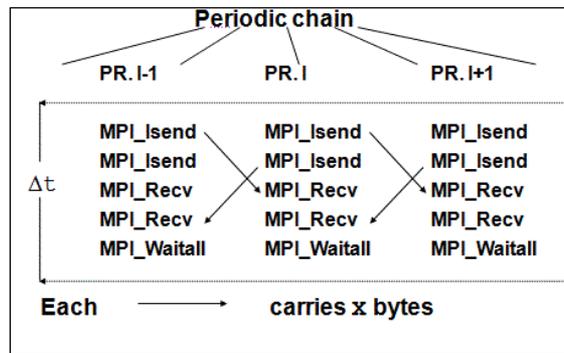
- PingPong



- SendRecv



- Exchange

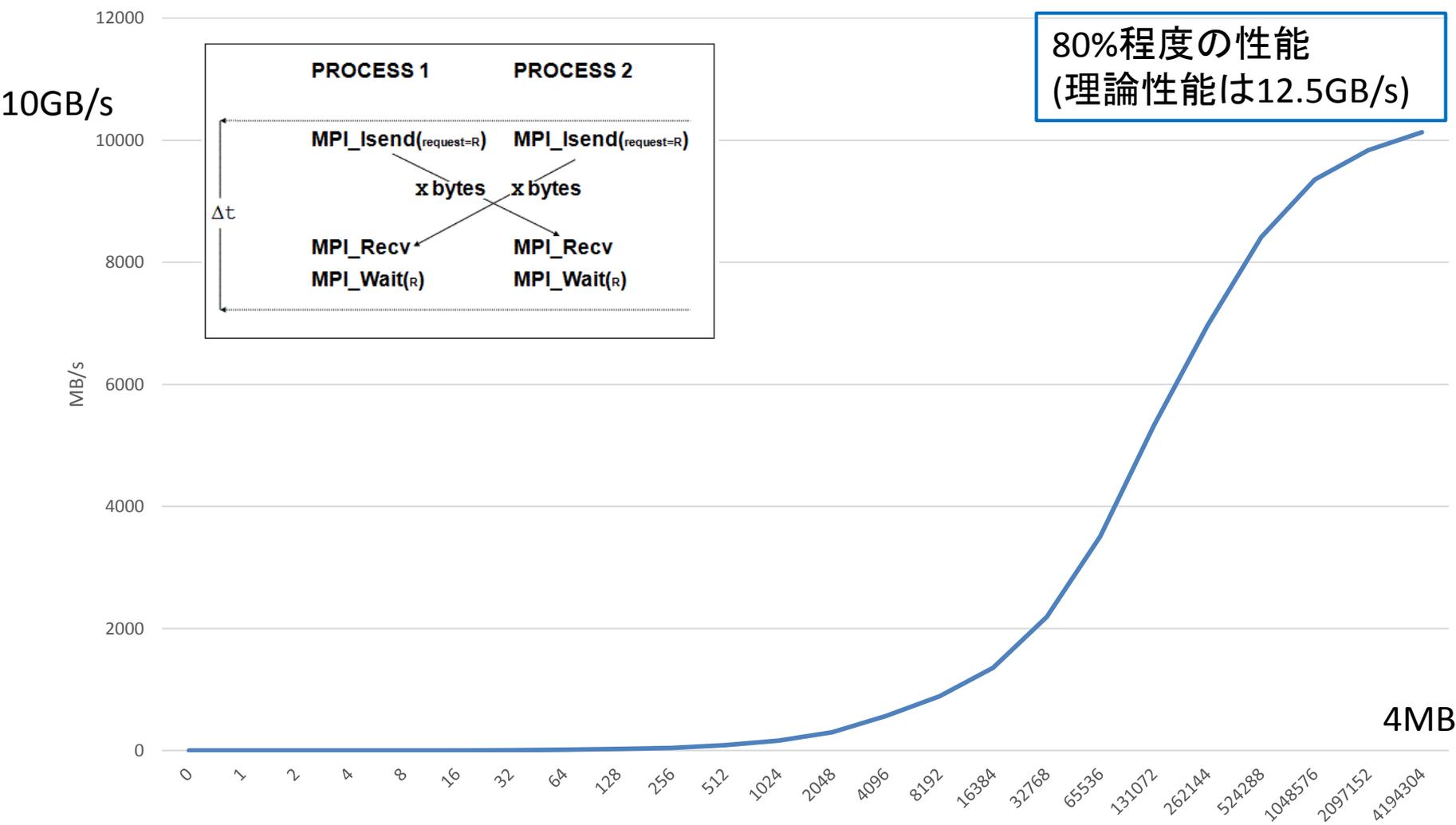


- Multi-PingPing

バリアの測定時間と ハードウェアバリア機能の障害

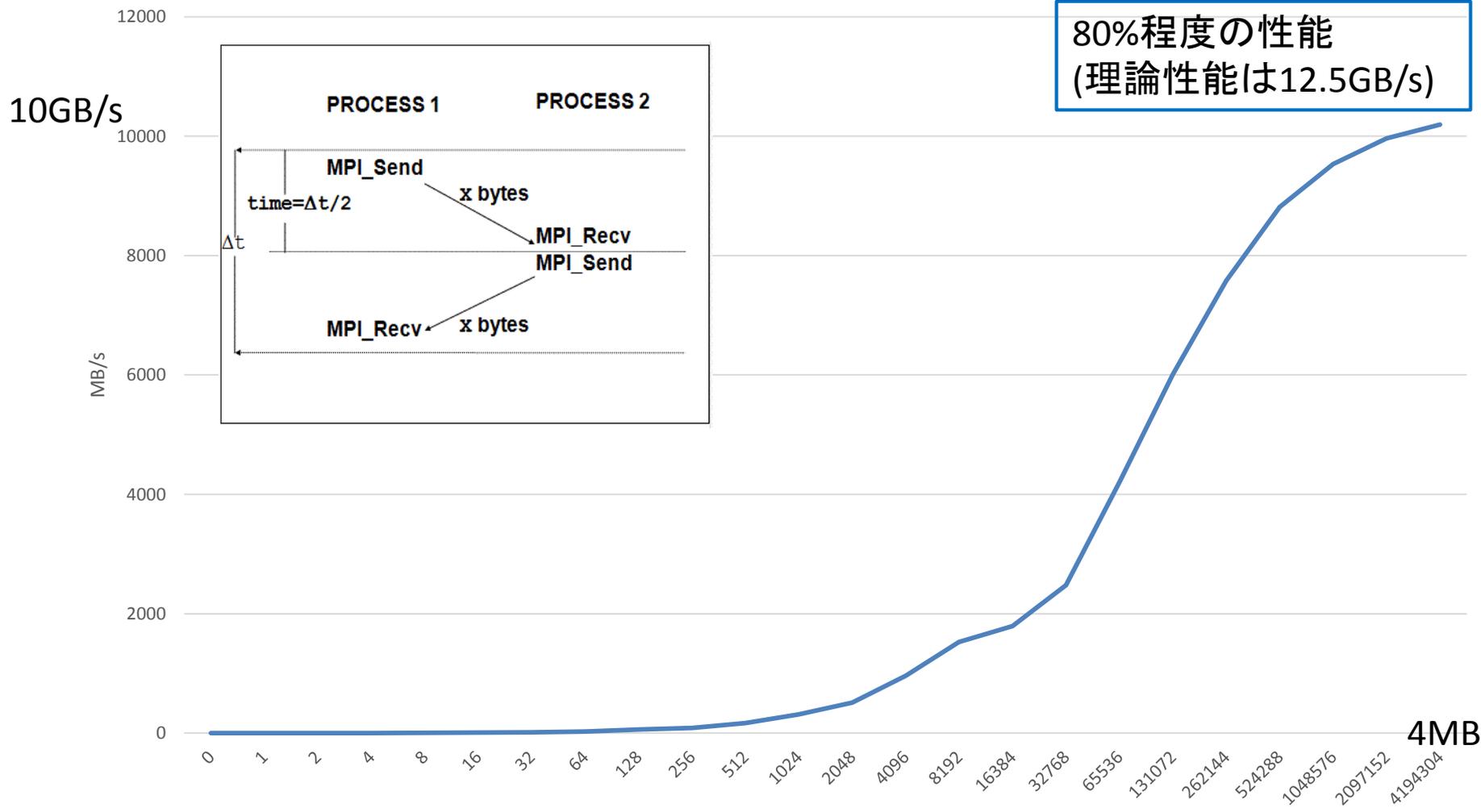
- 1,024ノードでのバリアの測定時間
 - 3月18日(ハードウェアバリア機能あり)
 - 25.51us
 - 4月28日(ハードウェアバリア機能なし)
 - 134.78 us
 - 今回のベンチマークはこの環境で測定

PingPing



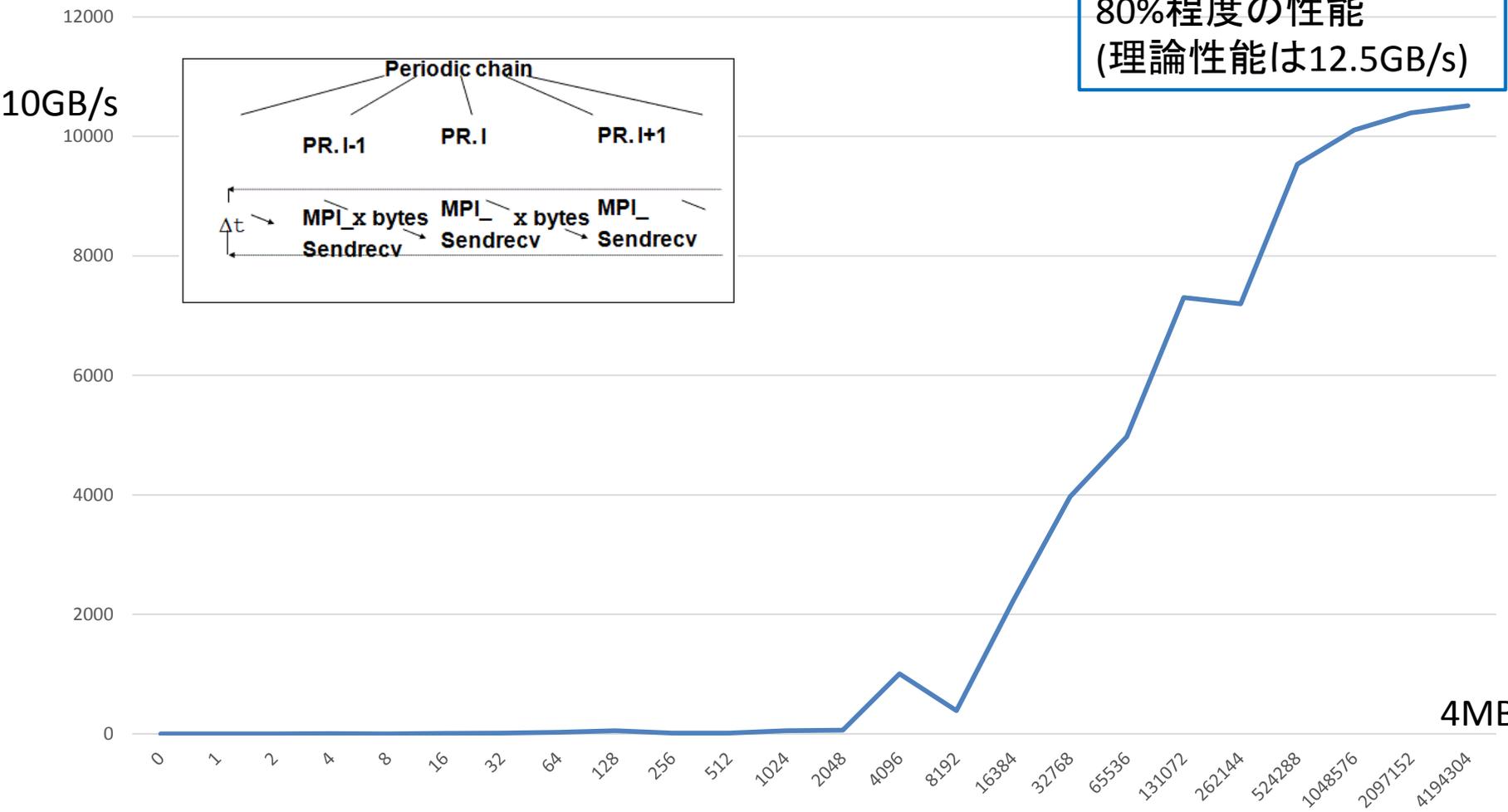
PingPong

80%程度の性能
(理論性能は12.5GB/s)



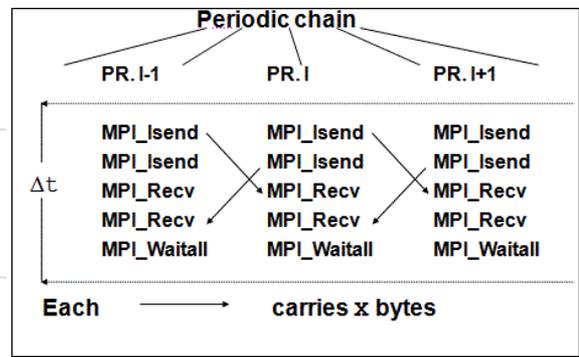
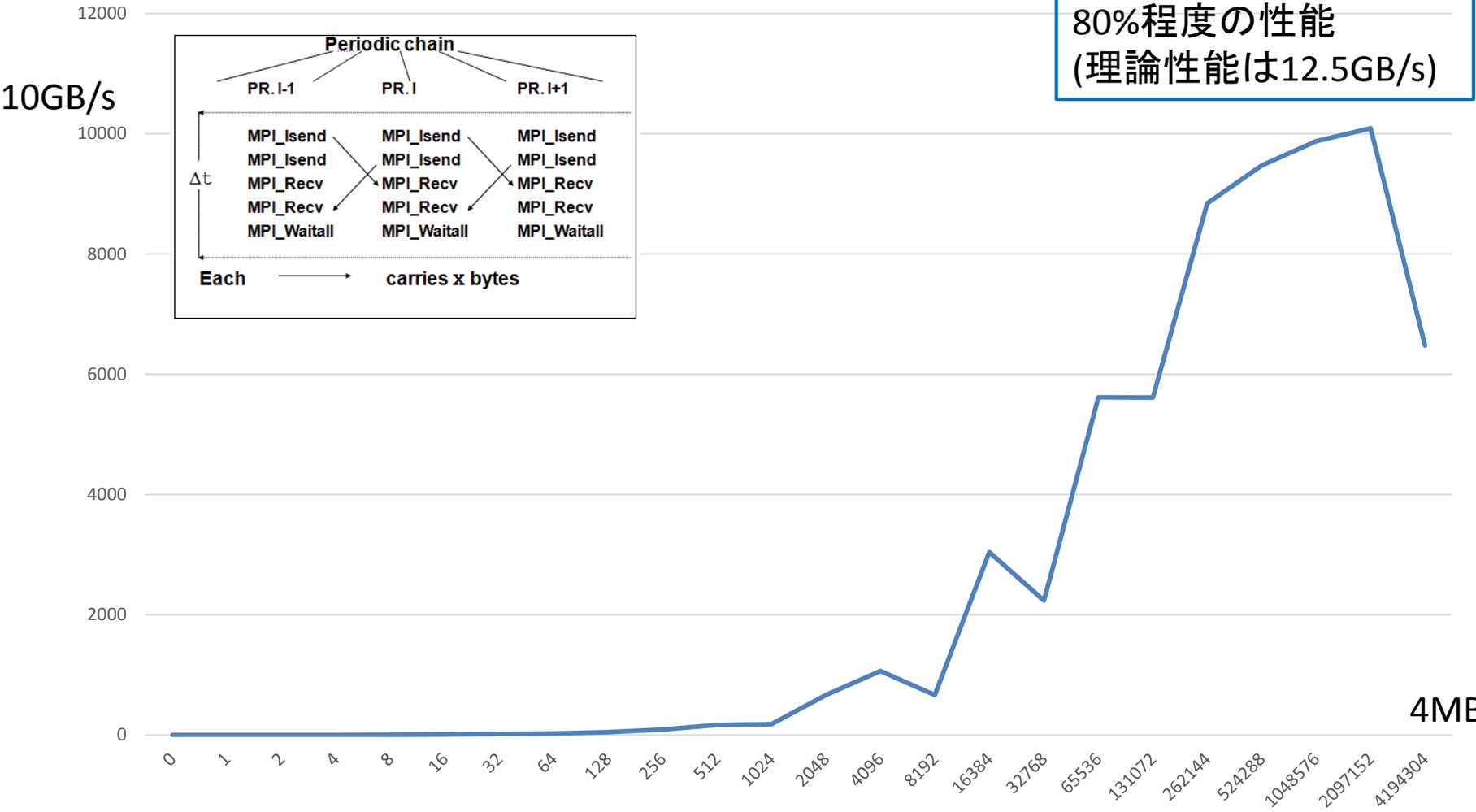
SendRecv

80%程度の性能
(理論性能は12.5GB/s)



Exchange

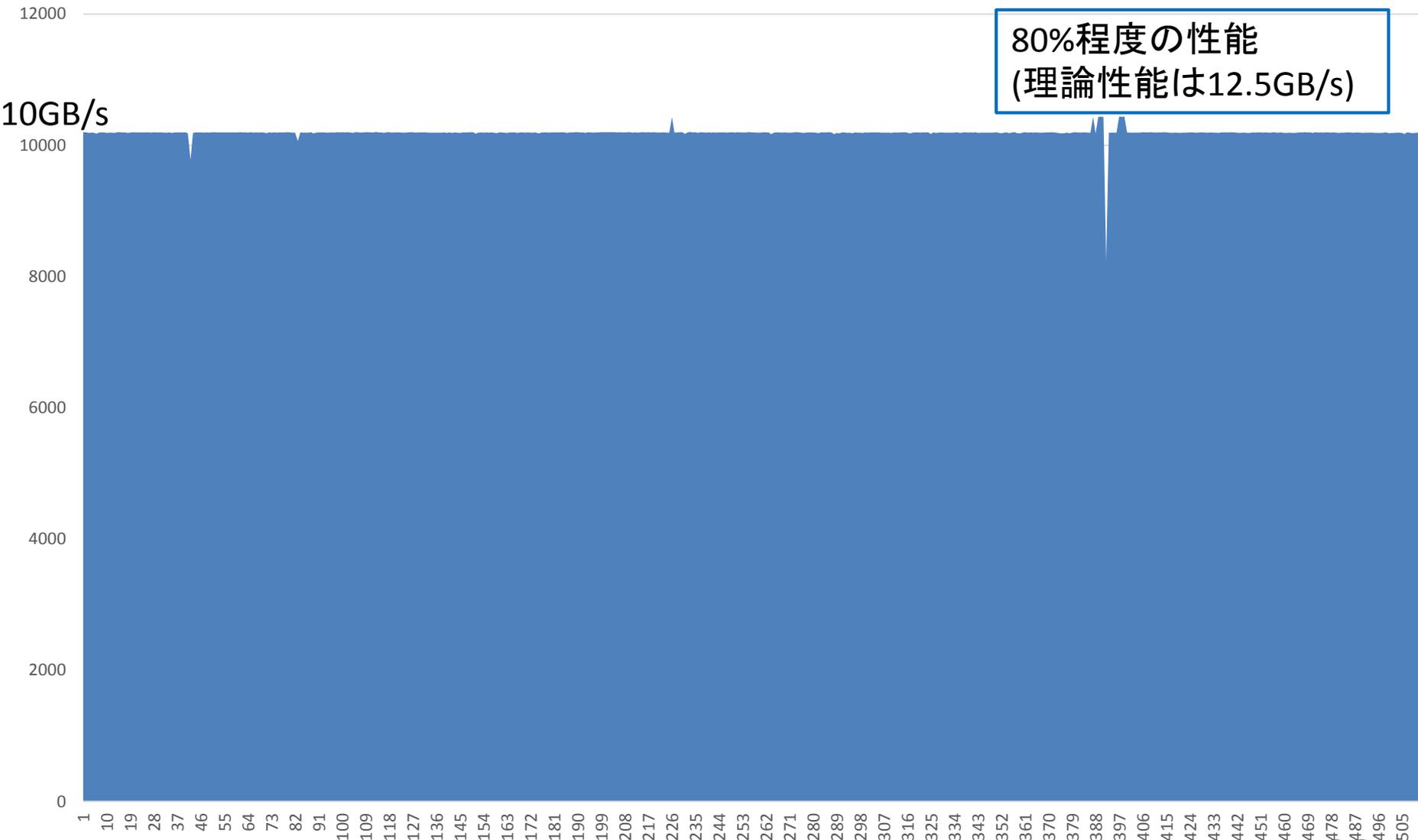
80%程度の性能
(理論性能は12.5GB/s)



Multi-PingPing

4MBでの測定

80%程度の性能
(理論性能は12.5GB/s)



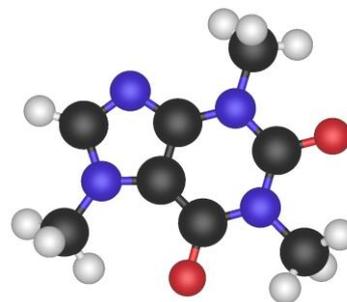
量子化学計算のベンチマーク

- 量子化学計算はHOKUSAIでもpopular
 - 但し、スケーリングの良い量子化学計算プログラムは少ない。
 - FX100向けにチューニングされているとなると皆無
- 分子研の石村和也氏作SMASHを用いたベンチマーク
 - <http://sourceforge.net/projects/smash-qc/>
 - 概要: <http://www.slideshare.net/NakataMaho/hpcs2015>
 - DFTなどの計算を行う第一原理量子化学計算プログラム
 - よいスケーリング
 - 一万コアでもスケール、構造最適化もスケール
 - SIMD化は難しい
 - 数百原子くらいまで計算可能



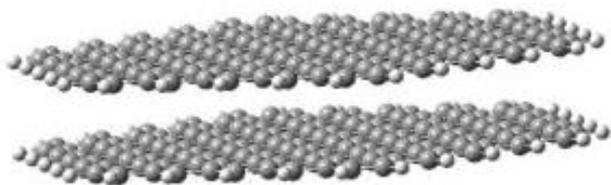
量子化学計算とは?

- 分子を第一原理的に解く
 - $H\Psi = E\Psi$
- 必要なパラメータ
 - 核の座標、核の電荷、電子数
 - 近似法(I) : 平均場近似 ~ 配置間相互作用(FullCI, Exact Diagonalization)まで様々
 - 近似法(II) : 基底関数
- よく聞かれる Jargon
 - SCF(Hartree-Fock or 平均場), DFT (密度汎関数法)
 - 分子軌道法(MO), Kohn-Sham方程式 (DFT)
 - B3LYP汎関数 (DFT)



ベンチマーク結果

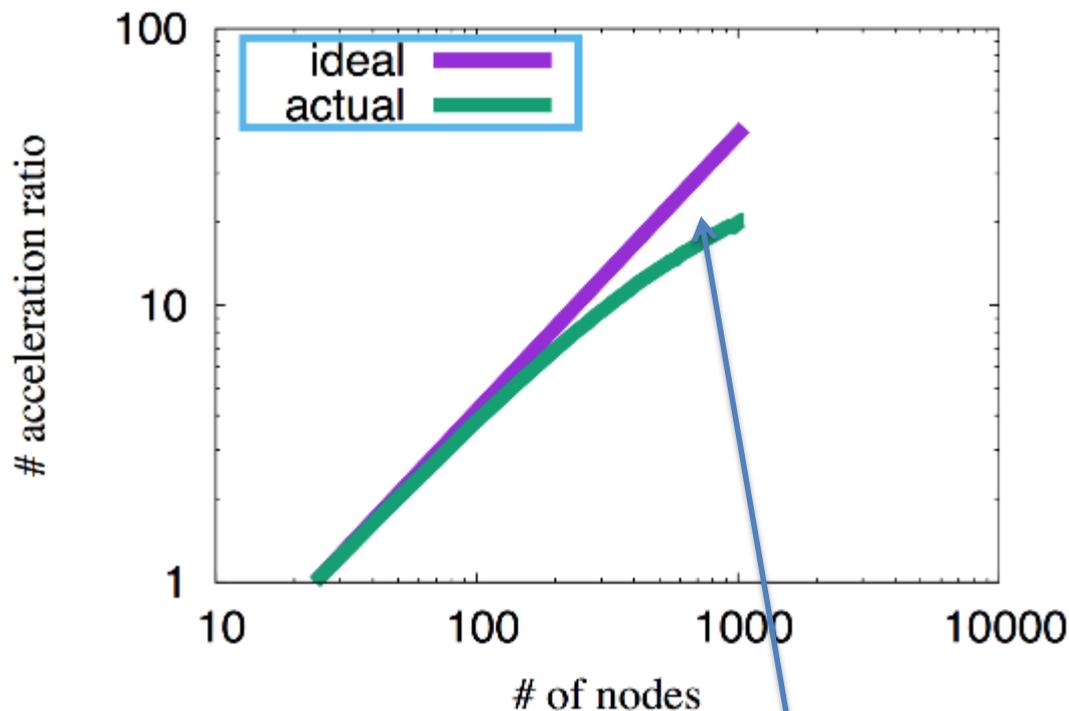
1056ノードで、24ノードの20倍(45%)の効率



計算機: HOKUSAI (MPC) Fujitsu FX100
分子: $(C_{150} H_{30})_2$ 360原子
基底関数: cc-pVDZ (4500基底)
計算方法: B3LYP
SCFサイクル数: 16
並列ノード内: OpenMP ノード間: MPI
オプション: -Kfast
京での結果: 石村氏による

京より**1.58**倍高速

(両方とも12288コアでの比較)



対角化は N^3 だが並列効率が悪い

対角化を除くと**効率**は90%
を超える

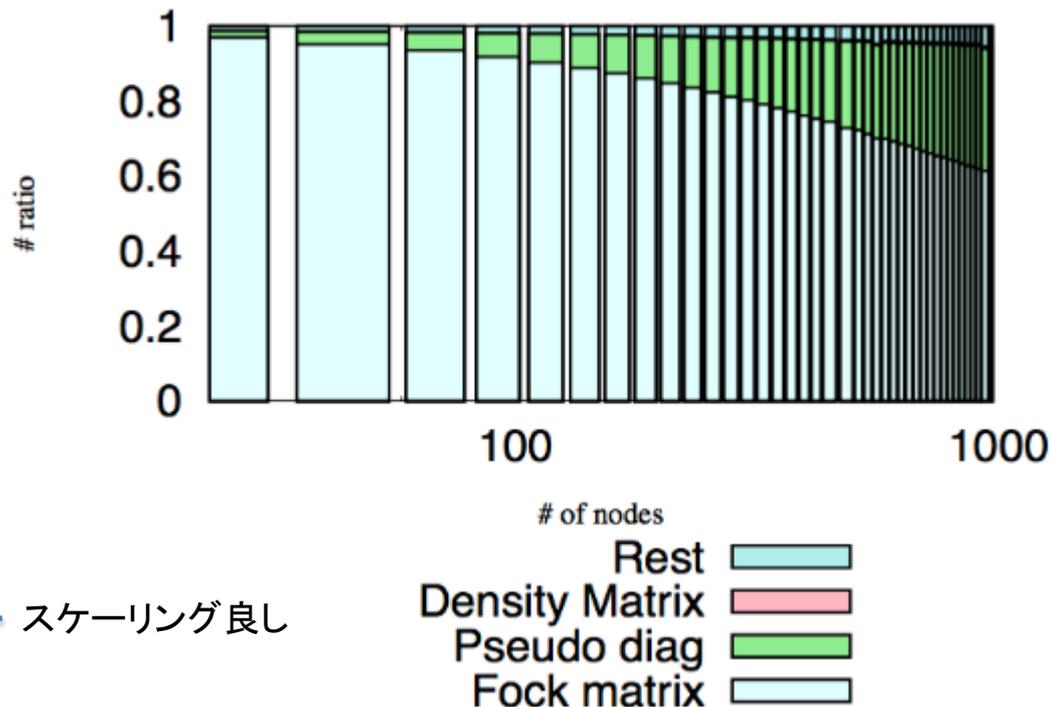
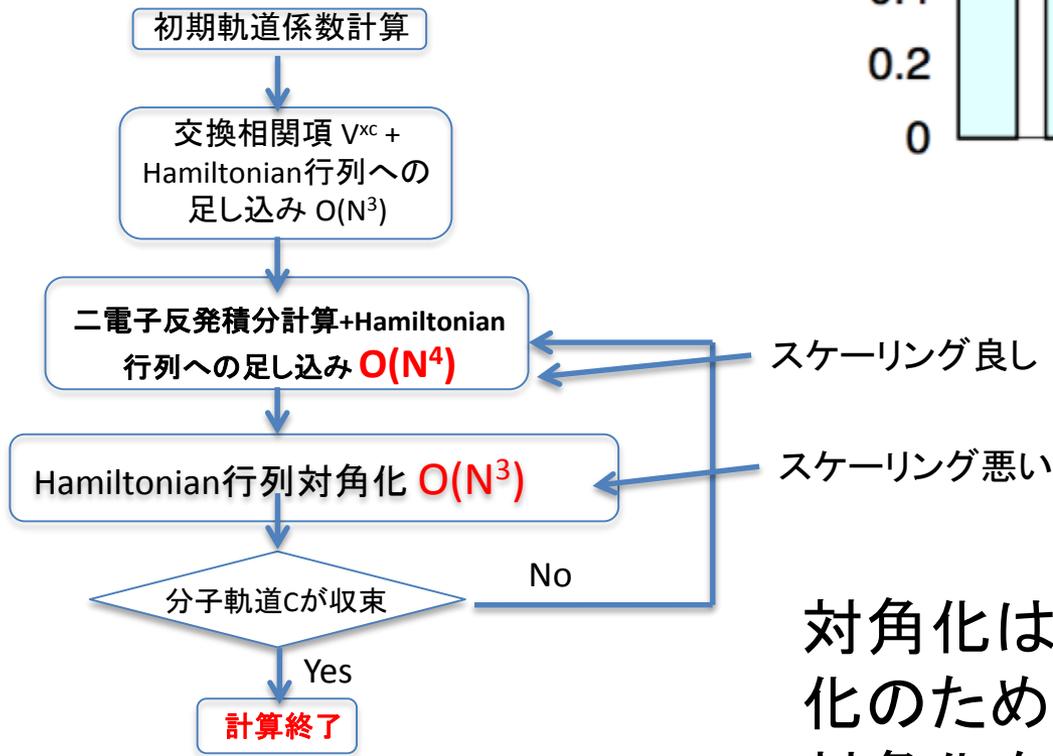
ベンチマーク結果:詳細

$$FC = \epsilon SC$$

$$F_{\mu\nu} = H_{\mu\nu} + V_{\mu\nu}^{XC} + d \sum_{i,\lambda,\sigma} 2C_{\lambda i} C_{\sigma i} \{2(\mu\nu|\lambda\sigma) - (\mu\lambda|\nu\sigma)\}$$

2電子反発積分

$$(\mu\nu|\lambda\sigma) = \int dr_1 \int dr_2 \phi_\mu(r_1) \phi_\nu(r_1) \frac{1}{r_{12}} \phi_\lambda(r_2) \phi_\sigma(r_2)$$



※収束しないこともある

対角化は $O(N^3)$ だが小さい行列の対角化のため、並列効率が悪い
 対角化を除くと効率は90%を超える

まとめ

- 姫野ベンチ
 - メモリバンド幅に対して少し落ちる性能
 - 32スレッド並列は性能が大幅に落ちる
 - 最適なスレッド並列数は、2,4,8,16で状況によって変わる
- NAS Parallel Benchmarks
 - 1000ノード程度の大規模並列でも優れた並列性能
 - 自動並列を試してみる価値がある
- IMB
 - 理論性能の8割程度の通信性能
- 量子化学計算(SMASH)
 - 1056ノードで、24ノードの20倍(45%)の効率
 - 同じコア数で京より1.58倍高速